

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	山口大学				
取 組 名 称	目標達成型大学教育改善プログラム				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	上記以外の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A31019	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	教養教育	専門基礎	FD・SD		
キーワード	目標達成型の教育改善, 教育改善の実質化, グラジュエーション・ポリシー, カリキュラム・マップ, 教育コーディネーター				

<選定理由>

本プログラムは、入学者の多様化と習熟度の低下に対応するために創出された目標達成型の教育改善プログラムとして高く評価できる。大学が保証するミニマム・エッセンシャルズを、学科単位でグラジュエーション・ポリシー（GP）としてまとめ、各授業の到達目標とGPとの関連性をマトリックス表にしたカリキュラムマップ（CUM）を作成して教育改善の実質化をはかろうとしている点に特徴がある。具体的な取組としては、①学部FD活動の実質化、②教育コーディネーター（EC）の配置、③教員・職員・学生が一体となった全学FD活動の実施、④「オンライン知の広場」の設置、⑤教育改善サポートシステムの開発が提案され、特に、非常勤講師を含めたFD活動、授業改善の指導助言にあたる教育コーディネーターの配置、教員の教育貢献度評価の導入など、教育改善の実質化に向けた具体的な提案がなされている。また、教育改善を実施していくための学内システム間の連携・統合をはかるサポートシステムの開発導入も考えられており、周到的な計画案といえる。

今後、このプログラムが学生の学習改善や教員の授業改善をどのように促したか具体的な検証を行い、その成果が他大学の教育改善に広く活用されることを期待したい。

取組の概要【1 ページ以内】

本プログラムは、中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」および「学士課程教育の構築に向けて」の中で示された「高等教育の質の保証」や「学士力の達成」の実現に向けて、山口大学が他大学に先駆けて構想し実施している目標達成型の教育改善を定着・発展させるための教育支援プログラムである。山口大学では、「大学が教育活動の成果を通じて学生に保証する最低限の基本的な資質」をグラジュエーション・ポリシー（以下 GP）という形で記述し、GP と各授業の到達目標との整合性をマトリクス表で示した「カリキュラムマップ（以下 CUM）」を平成 18 年度に策定して、全学的なカリキュラム改善を推進している。

本プログラムでは、教育改善実質化計画を策定し、教育改善の実質化に向けた大学全体の組織的な取組を推進する。

まず、GP や CUM の意義や役割についての共通理解をさらに深めるために、各学部・研究科所属の教員と大学教育センターとが一体となった FD 活動を拡大教授会等の場で実施し、GP の達成という学生の視点から見たカリキュラム改善を全学レベルで推進する。

また、教員個人の授業改善努力をきめ細かくサポートするために、教育コーディネーター（Education Coordinator：以下 EC）を配置し、個人レベルでの授業改善の支援を行う。

さらに、授業中における学生への学習支援や履修指導を強化するために、TA・事務職員・教育職員が一体となった FD 活動を企画・実施する。

在学生と卒業生がお互いに交流できるサイバースペースである「オンライン知の広場」を新設する。これにより、卒業生は卒業後も大学から様々な支援を受け易くなるとともに、ラーニング・アウトカムズの検証・改善を図っていくために卒業生からの意見を聴取する場とする。

教育改善の実質化をサポートするシステムとして、既存の教務電算システムや授業評価システム等のデータベース・システムの連携統合化を進める。特に、IC カード学生証を利用して学生の出席状況管理を自動化するとともに、学業成績等の必要なデータを自由に閲覧することができる教務電算システムと連携した「出席管理システム」の開発を行う。

このように学生の身につけるべき資質を教育目標とし、その実現に向けた FD 活動と環境整備を推進することで、教員の教育に対する視点が変わり、教育改善活動が加速化される。その成果として、有機的に関連づけられ、学生の学習意欲を増進させる、学士課程教育カリキュラムが実現される。

